

知的障害と身体障害をもつ 20代男性の就労支援を考える

●スーパーバイザー●

野中 猛（日本福祉大学教授）

●事例提出者●

Mさん（通所授産施設・作業療法士）

●提出理由●

1. 言葉による表現が少なく、心の細やかな理解が難しい。
2. 障害がどのように生活や人間関係、就労に影響しているのか十分に理解できていない。
3. ご本人の希望に対して自分たちは何ができるのか、知恵を分けていただきたい。

●利用者のプロフィール●

クライアント：Aさん・25歳・男性

診断名：知的障害及び適応障害

通所授産施設利用開始年月：H18年4月

家族構成：父、母

障害者手帳の有無：あり（療育手帳・等級B2）

経済状況：障害基礎年金2級（約6万円／月）

公共職業安定所障害者求職登録：あり

職業評価：受けたことがある

免許：普通自動車免許

●利用開始の状況●

高校卒業後仕事に就くも長続きしないため、公共職業安定所から障害者就業・生活支援センターDを紹介される。同センターとの面接のなかで知的障害があると判断され、はじめて障害と向き合うこととなった。同センターのスタッフと2人で当施設の見学のために来所。はじめは「なぜ俺に福祉施設なんかを勧めるのか」と不満と憤りの感情をもったの見学であったが、当施設が「明るいと思った」ことと、「就労のための準備になる」との説得に応じて利用を開始することとなった。

●主訴と施設の利用目的●

主訴：「早く仕事に就きたい」

施設利用を希望する理由：「仕事習慣をつける」「規則正しい生活リズムを身につける」「自信をつけたい」「人間関係を上手くできるようになる」

●生活機能と障害の構造●

○心身機能・身体構造

1. 身体的特徴

①身体構造と機能 身長約168cm、筋肉質。左足を少し引きずりながらの歩行（跛行）。左足が右足に比べて細く短く、骨盤が不安定。慣れない作業や細かい作業を行う際に緊張が高くなり（筋緊張亢進）、右手を動かすと左手がひとりで動き（連合反応）、ふるえ（振戦）がみられる。また、身体の動きが硬くぎこちない（筋緊張異常）。左手



全国各地で行われている事例検討会の模様を誌上で再現します。検討会及び事例の内容は、プライバシー保護の観点から、全体の趣旨に差し支えない範囲で変更させていただきました。

の把持に不自由さがある。手先の細かい動きは苦手。

②発音・発語 口腔周囲の動きがぎこちない（痙性）。発音が不明瞭。

2. 知的特徴

24歳時 知能指数（IQ）：52。日常の計算や文章理解能力は小学校低学年のイメージ。「論理的に考える」などの抽象的な言葉の内容の理解は困難。

3. 精神的特徴

16歳の時に不登校が原因で精神科を受診。軽度の知的障害があるため耐性が低く、失敗をした時にストレス反応が出やすい。精神的に不安定になるとうつ状態や体調不良（胃・頭・足の痛みなど）を訴える。21歳の時に療育手帳を取得するも、障害受容に関してはまだ十分とはいえない状況。精神的な母子分離がまだ難しい印象。母親や施設スタッフを目で追い、後ろをついてまわっていることを自分では認識していない様子。プライドは非常に高いが精神的に弱く、失敗がストレスになりやすい。

○活動

1. 日常生活行動（ADL、IADL）

家での様子について母親は「食事の後片付け、風呂の掃除などは、時間はかかるが丁寧に行っている」「困ることがあると目で訴え、自分についてまわる」と話される。お金は親が管理しているが、買い物は自分で行う。友人と遊びに行くこともある。

2. 施設での作業

まじめで、ねばり強い。作業の速度はゆっくりで他者の約2倍程度。5時間の作業も可能。集中が途切れやすく、背伸びをしたり、周囲を見回したり、

歩き回る。材料の選別や計量など多くの作業において見守りと手助けを必要とされる。失敗しながらではあるが、しだいに説明を素直に聞くようになってきている。電卓は使えない。

3. 職業評価結果

①身体的側面：左足に軽い麻痺があるが、日常生活や運動に支障はない。精神的影響から疲れやすく体力もない。

②精神的側面：プライドが高く、自分の能力と現実のギャップからストレスがたまりやすい。自分の意思を通そうとする頑固さ・甘えがみられる。

③社会的側面：移動能力、日常生活の能力はある。金銭の計算は100円単位であれば可能。

④職業的側面：ふだんから何事に対しても緊張が強く、さまざまなことがストレスとなる。失敗原因を反省することができない。

○参加

1. 対人関係

他者から話しかけられると答えるが、自分から他者に話しかけることはあまりない。関心がある人をじっと見、目で追う。言葉が少ないため、気持ちや意思が他者に理解されにくい。会話は単語レベルが多く、好きな話題ではよく話をする。文章はあまり理解できない。

2. 集団への参加

誘われれば活動や集団に参加する。セルフヘルプグループにも直近2回の開催に参加がある。

3. 就労していたときの状況と辞めた理由

大きな会社への就職を希望するが、試験に通らない。また、就職できた勤務先で、「のろい」「要領が

悪い」などと指摘されたことがある。就労を通じて初めて「できない自分」に出会ったようで、ショックが大変大きく、母親の傍を離れずついて回って甘え、母親の添い寝を欲し、物を投げてだだをこねるなどの子どもがえり（退行現象）がみられたという。

○背景因子

同居している家族がAさんの理解や支援を行っている。本人は「家族が大人として見てくれてない」と話す。両親は「子どもの障害を受け容れるのに時間がかかった」と話される。

○個人因子

1. 生育歴

手のかからないおとなしい子どもだったとのこと。小学生の頃はサッカーが好きで毎日サッカーをしていた。現在も友達数人とバレーボールをしている。学齢期から高校にかけて「歩き方がおかしい」といじめにあっている。市内の私立高校を卒業。

2. 趣味など

音楽鑑賞、バレーボール。

ケース検討会

野中 ありがとうございます。両親と同居している25歳の男性。発達障害があり、身体にも障害を少しもっています。授産施設を使いながら仕事に就きたいと考えているけれども、作業能力等の点で問題があるというケースです。まず、はじめに客観的な情報をそろえ、それから具体的な手立てを考えていきましょう。どこからでも質問をどうぞ。

ケースの全体像をつかむ（見立て編）

本人の能力について

発言 施設にはどうやって通っているのですか？

Mさん ご本人用の自家用車を持っておられるので、ご自分で運転して通ってこられています。

野中 ほう、車を持っているのですか。車種は？

Mさん S社の軽自動車です。

野中 色は？

Mさん 白です。

野中 それは誰が選んだのですか？

Mさん そこまでは聞いていません。

野中 一見些細なことのようにですが、そういうところも重要な情報なんです。車のような嗜好を反映した大きな買い物をするときに、本人がどの

くらい関与しているのか、すべて本人が決めて親は金を出すだけなのか、親が軽自動車という範囲を指定して、そのなかから本人が選んだのか、それともすべて親が選んで決めたのか。そういった経緯を知ること、家族の力動や本人の能力、両親の息子に対する接し方の特徴などを見て取ることができます。

Mさん なるほど——。そういう発想はまったくありませんでした。今後注意していきます。

発言 免許証は取得できたのですね。

Mさん はい。高校を卒業する頃に友達と一緒に取りに行かれました。友達は1カ月ぐらいで取れたのですが、Aさんは半年ほどかかっています。

野中 そのとき、どの部分で延びてしまったかはわかりますか？

Mさん そこまでは押さえていません。

野中 実技試験がダメだったのか、その前段階で行程が進まなかったのか、ペーパーテストを何度か失敗してしまったのか。どこでつまづいたのかが見えると、本人の能力などを細かくアセスメントすることができますよね。

Mさん なるほど。



交友関係・嗜好について

発言 施設で一番親しいのはどんな方ですか？

職員 私です。作業の担当をしています。

野中 どうしてあなたになつているの？

職員 いま工場内でのセロファンの仕分け作業を担当してもらっているのですが、私とペアで行っているからだと思います。あまり踏み込まない程度で極力プライベートな話をするようにしていますが、そのあたりを「話しやすい相手」として見てくれているのではないかと思います。

発言 利用者には仲のよい人はいないのですか？

Mさん 自分から誰かに話しかけることがありませんので、なかなか利用者のなかには打ちとけた関係の方というのはいません。

野中 友達と話すときのスキルなどをトレーニングするSST（ソーシャルスキルトレーニング）のセッションなどはしていないのですか？

Mさん プログラムとしてはあるのですが、最近では仕事が忙しいのでちょっとさぼっています。ただ、職員をはじめ、自然と挨拶をするような雰囲気づくりはしています。

野中 特別にプログラムの時間をとらなくても、本人がモゴモゴと朝の挨拶をしたときを逃さずに「もうちょっと大きな声でやってみようね。はい、もう一度」と、現場のSSTをやってははどうですか？

Mさん それならできますね。早速やってみます。

発言 一緒に遊んでいる友達というのは、どういう方ですか？

Mさん 高校のときからの友達です。数はそれほど多くはないようですが、何人かいらっしやって、カラオケに行ったりしています。

野中 カラオケの持ち歌は何ですか？

Mさん ミスターチルドレンをよく歌うそうです。

野中 ミスチルの何という曲ですか？

Mさん 曲名まではちょっと……。

野中 カラオケで歌う曲というのは、その人の人生観をあらわしています。曲が表現している世界に共感したり憧れるから、自分でも歌いたいと思うのでしょうか？ その人の心の内を探るのに、カラオケの持ち歌を聞くというのはいい方法ですよ。

Mさん なるほど——。これからうかがってみたいと思います。

野中 あなた（職員）はAさんの余暇の過ごし方について何か情報をもっていますか？

職員 どのくらいの頻度かはわかりませんが、やはり高校時代の友人たちと釣り堀で夜中まで釣りをしていたという話を聞いたことはあります。

野中 なるほど。実は就労問題を考える際には、余暇というのは重要なポイントなのです。余暇能力がトレーニングされているかどうかが就労の継続を左右するところがあり、余暇がうまくいっていると就労もうまくいくという関係がみられます。Aさんはどんな釣りが好きなんですか？

職員 すみません。そこまではチェックできていません。ちゃんと見ないとはいけませんね。

発言 バレーボールは誰とやっているのですか？

Mさん 同じ高校時代の友人です。毎週1回やっているようです。

野中 友人関係がずっと生きているんですね。25歳ですから、友達は勤めているんですね。

職員 そのようです。そのなかの一人は、転職なのかもしれませんが、最近就職が決まったそうで、「僕も就職がしたい」と言っていました。

野中 複数の友人がいて、そのなかに就職をした

モデルがいる。これはものすごく大事ですね。施設の職員よりもうんと大事です（笑）。職員は必ず別れなければなりません、友人は一生ですから。

Mさん その他の余暇に関する情報としては、部屋で音楽を聴いていることが多いという話を聞いたことがあります。

野中 そこも単に「音楽を聴いている」だけではなく、具体的にどんな音楽なのか、演歌なのかジャズなのかラテンなのか、ミスチルではどのアルバムが好きなのかといった情報が欲しいのです。

Mさん なるほど。本当に具体的なところまでつかまないと、情報としては生きてこないのですね。

野中 大事なところに気がつきましたね。我々の生活でも同じじゃないですか。抽象的な「音楽というもの」を聴いたりはしませんよね。どんなジャンルやアーティストの曲を好んで聴くかということに、その人の個性があらわれるわけですね。

Mさん よくわかりました。

発言 ご自宅は持ち家ですか？

Mさん はい。2階建のご立派な家です。

野中 本人の部屋もありますね。

Mさん はい。

野中 入ったことはありますか？

Mさん 8畳くらいあるとは聞いていますが、部屋の中までは入ったことはありません。

野中 もちろん本人の許可を得た上でですが、一度部屋を見せてもらうといろいろなことがわかりますよ。皆さんの部屋もきっとそうでしょうけれど、自分の部屋というのは、かなりその人の全体像をあらわしていますからね。その意味で、訪問というのは最高の情報収集の手段です。

Mさん わかりました。どこかで機会をつくってみたいと思います。

就業について

発言 就業を希望されているということですが、これまでに仕事をしたことはあるのですか？

Mさん 3回あります。最初が製紙会社で1カ月

で辞められました。2つ目が食品製造、これは2カ月で辞めています。3つ目がクリーニング店で11カ月続きましたが、辞められています。辞めるのはすべて自分から申し出ています。

発言 辞めた理由はわかりますか？

Mさん コミュニケーション面がうまくいかなかったということもあるようですが、技術面でも十分にできず、不安になったようです。クリーニング店での作業では養護学校を出た方よりもスピードが遅く、非常に戸惑われたと聞いています。

野中 本人が希望している職種はあるのですか？

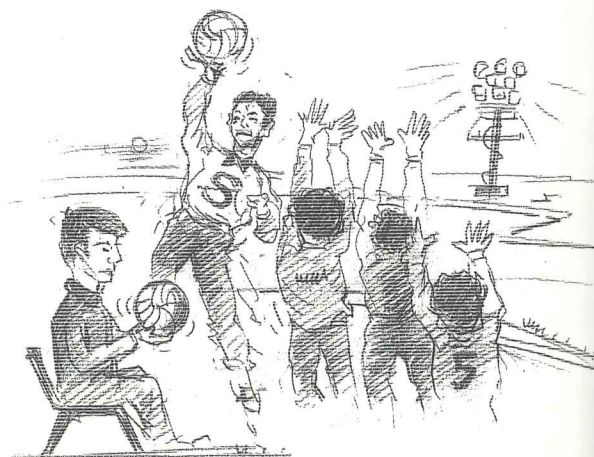
Mさん 最近は製造業がいいと言っています。

野中 理由はわかりますか？

Mさん おそらく繰り返し反復するような作業に手応えを感じているのだと思います。

野中 本人が希望する理由をもう少し細かく、どんな点に魅力を感じて製造の仕事に就きたいのかを聞くと、具体的な職場探しにつながっていきやすくなります。クリーニング店が11カ月続いたのはどの部分が合っていたからなのか。他人と比べて自分が劣ると感じたときに身を引いたというのも重要な情報です。3回ある就労経験は、すべてこの人の今後を考える重要な情報として使うことができます。

Mさん わかりました。



発言 ご両親は本人の就業や今後の生活についてどう思っているのでしょうか。

Mさん 仕事に関しては「ゆっくり練習して頑張れ」というスタンスです。ひとり暮らしについては「おまえがひとり暮らしできると思うか？」という感じでお父さんは話しているみたいです。

野中 ひとり暮らしなんかできるはずないだろうというのがお父さんの意見ですね。お母さんはどう思っているのですか？

Mさん お父さんの横で同意をするような雰囲気聞いていらっしやいます。

野中 お母さん個人の意見は聞いていますか？

Mさん ご夫婦で話し合っているかと……。

野中 それはウソですよ。夫婦で意見が一致していることなんてないでしょう、あなたのところだって（笑）。だから意見は個別に聞かなければいけません。夫婦それぞれの意見をしっかりと聞き分けておかないと、先に行ったときに誰の要望に応じて支援を進めているのかわからなくなって混乱してしまう原因になります。

Mさん わかりました。チャンスをみて、お母さんのお気持ちもうかがってみたいと思います。

野中 金銭管理は両親がしているということですが、小遣いはいくらもらっているのですか？

Mさん わかりません。

野中 私はいつも言っているのですが、「お金の自立が心の自立」です。皆で三唱しましょう（笑）。お金は親が全部管理していて、それで自立をしましょうといっても絶対に無理です。Aさんは障害年金だけでも月に6万円収入があるわけですね。

Mさん はい。

野中 すぐには難しいかもしれませんが、いずれそのお金を本人預かりにする必要があるでしょう。本人は銀行は使えますか？

Mさん すみません。わかりません。

野中 自立への第一歩は銀行の使い方の指導です。銀行とカードの使い方を覚え、障害年金のな

かから弁当などの食費をお母さんに渡す。お母さんは嬉しさにむせび泣く。そういう流れがいいですね（笑）。

Mさん はい（笑）。

発言 お母さんはいくつですか？

Mさん 50歳代前半です。

発言 専業主婦ですか？

Mさん いえ、結婚前からずっと、地元では大手の建設会社に勤めています。

野中 仕事の中身はわかりますか？

Mさん 事務の仕事と聞いています。

野中 お父さんの仕事は？

Mさん 全国的にも名前の知られている企業に勤めていましたが、この春に定年になり、いまは家にいらっしやいます。

野中 就労問題を考える際には、両親の仕事の情報を押さえることが絶対的に重要になってきます。皆さんの多くもそうだと思いますが、仕事を選ぶ際には、反発も含めて両親の影響を受けていることが多いです。特に障害者の就労にかかわる際は、絶対にはずしてはいけないポイントです。

Mさん Aさんの場合もそうです。ご両親が大手の会社にお勤めですので、自分も大きな会社で働きたいという希望をもっておられます。

父親との関係について

野中 お父さんの定年は最近なんですね。

Mさん はい。4カ月ほど前です。

野中 これからが重要ですね。大手企業のサラリーマンだった父親が会社を辞め、家にいるようになった。父親が本人にどうかかわるかで、今後の本人の人生もかなり決まってくるでしょうね。

Mさん その点はいい方向に向かっているのではないかとと思っています。

野中 というと？

Mさん 実は2カ月ほど前にAさんが車の追突事故を起こしました。ちょっとしたかすり傷程度だったからか、Aさんは相手にべこっと頭を下げた

だけでその場から去ってしまったので、怒った相手が警察に通報したということがありました。そのとき、お父さんがAさんを警察に連れて行って事情を説明したり事後処理をしたりしていますので、御本人のために動こうという気持ちを積極的にもっておられると思います。

野中 それがいい方向かどうかはわかりませんよ。事故を起こしたのはAさん本人なので、本当はおやじさんが前面に出るのではなく、本人が自分で処理できるよう、側面からサポートするのが最高級のおやじなんです。そういう意味では、今はまだB級おやじですね（笑）。

Mさん なるほど。

発言 本人はお父さんのことをどのように思っているのですか？

Mさん 言葉で表現されることはありませんが、親愛の情を感じていると思います。

野中 何か具体的なエピソードはありますか？

Mさん おそらく定年されてからだと思いますが、お父さんが四国八十八カ所巡りに行かれました。そのときのお土産としてお守りをもらったのですが、それを今もずっとつけています。

野中 なるほど。気持ちが伝わってくるエピソードですね。ふつう、父親からそんなものをもらったら捨ててしまうでしょう（笑）。でも、彼はずっと肌身離さずつけている。お父さんを尊敬しているし、愛しているんですね。やはり、今後の支援においてもお父さんは重要人物ですね。きっと、父親からの話は本人に入りやすいでしょう。

具体的な対応策を考える（手立て編）

野中 では、ここまでの情報をもとにプランニングを考えていきましょう。これからAさんをどのように支援していけばいいでしょう。順不同でかまいませんので、アイデアを出してください。

発言 まず、本人が何ができて何ができないのかを整理して、就業や自立生活に向けて計画的に支

援していきたいと思います。

野中 ADL、IADLの情報を整理して、できていないところの向上計画を立てる。大切ですね。

発言 他人に自分から話しかけるあいさつの練習をしてみたいと思いました。

野中 対人関係のコミュニケーションの基本はあいさつですからね。日常のなかでSSTの要素を取り入れていくといいでしょう。そのとき大切なのは積極的にほめることです。

Mさん わかりました。

発言 具体的にはわからないのですが、金銭管理プログラムを作って実行したいと思います。

野中 最終目標は自己管理できることです。そこに到達するまでにどんなプロセスを踏むか、本人と一緒に考え、両親に提示していくといいでしょう。いずれにせよ、自己管理できるようになれば、本当の意味での自立はありえませんが、

発言 就労や自立についてのお母さんの意向をうかがいたいと思います。

野中 そうですね。それと同時に、このケースではお父さんが重要なカギを握っているからです。父親の意向をもう一度しっかり確認し、父親をどう本人のサポーターにしていけるかが重要ですね。

発言 本人が気に入っている作業について、どんな部分が好きなかを細かくチェックしていくことが必要なと思いました。

野中 得手・不得手、好みの確認は大切ですね。そこが見えてきたら就労実現のプログラムに入りますが、具体的なプロセスはどう考えますか？

Mさん ちょっと思いつきません。

野中 そのあたりは授産施設単独でやるよりも、ハローワークや障害者職業センターのカウンセラーと協働していったほうが、就労の実現性は高まっていくでしょう。授産施設だけで考えても1%程度しか就労できないというデータもあります。

Mさん わかりました。

発言 授産施設での作業などはいろいろなプログラムがありますので、本人がホッとできるよう



息抜きを設けたいと思いました。

野中 余暇は重視したほうがいいですね。友人との付き合いの頻度や内容についてももう少し調べてはどうでしょう。私だったら「一回紹介してくれる?」と言って、会ってしまいますけれどね。

Mさん みんなで方法を考えてみます。

野中 これまでに出てきたアイデアをまとめると、表ようになるのではないのでしょうか。会場の方で他に意見や感想はありますか?

発言 私は精神障害の当事者です。今日の事例検

討に参加して印象に残ったのは、先生が車の色やカラオケで歌う曲名など、非常に具体的な情報を通してクライアントの姿に迫ろうとしていたことです。それと、先生がAさんを一度も「障害者」として見ていないことに感銘を受けました。障害者かどうかという抽象的な概念は一切放棄して、この人の生活のしづらさをどうすれば解決できるのかに集中して考えておられた点が非常に強く印象に残りました。

野中 とてもいいフィードバックをありがとうございます。そのとおりですね。私は「障害をもった人」の援助をしているわけではないのです。不便な状況に陥っている人がどうしたら人生を花開かせていくことができるのか、と考えているのです。そういう意味では、皆さんが対象者であっていいわけです。みんな不便な人生を送っているでしょう(笑)。ぜひ、カンファレンスを「その人が幸福になるには何が必要か」を考える場にしていただければと思います。今日はお疲れさまでした。

Mさん&会場 ありがとうございます。

